

本号は“直腸・肛門部病変の新しい診かた”として企画された。“新しい診かた”がどの論文にどれだけ盛り込まれているかは読者の判断に任せたい。

直腸・肛門部病変の知識は消化器医に欠くべからざるものとなっていることは確かである。身近な疾患であり、全身疾患の指標ともなりうる疾患であるにもかかわらず、場所的制約のため一般に関心が十分払われていなかったことは事実であろう。このため“見ざるため”の“知らざるため”の誤診が多くあった可能性はある。直腸・肛門部病変の既知の世界的知識・常識を知ることは確かに大切である。このことが新しいもの、新し

いことを見出す糸口になるからである。

しかし、既知の知識の獲得に終始することが本誌の最終目的ではあるまい。次への夢や問題点を伝えることも本誌の目的であるべきと思う。幾つかの論文にはその姿勢がみえるものもある。患者や病変をみて、既存の知識・常識に矛盾がないかどうか、病変の形成機序・発生機序はどうか、病変の自然史はどうか、などを考えることが夢や問題点を明らかにする道に通じよう。

直腸・肛門部病変に関しても、わが国は世界をリードするだけの成果を上げうる時期にきていると感ずるのは、私一人ではあるまい。

胃と腸

4月号（第22巻・第4号）予告

発売予定 4月2日

定 価 1,700円

主題／小さな大腸癌—早期診断のために

序 説	今、なぜ小さな大腸癌を問題とするのか……………筑波大・病理	中 村 恭 一
主 題	20 mm 未満の進行癌の X 線・内視鏡的特徴—早期癌との 対比において……………癌研・内科	佐々木喬敏・他
	10 mm 台の進行大腸癌の X 線・内視鏡的特徴……………国立がんセンター・放	牛尾 恭輔・他
	大腸小早期癌の内視鏡的ならびに組織学的特徴—特に “flat elevation”と IIa との関連について……………東大・1 外	武藤徹一郎・他
	10 mm 未満の早期癌の X 線・内視鏡的特徴—色素散布の 有用性を含めて……………山口大・1 内	針間 喬・他
	10 mm 未満の早期癌の X 線・内視鏡的特徴 —実体顕微鏡所見を含めて……………東京都がん検診センター	西沢 護・他
	10 mm 未満の大腸癌の病理組織学的特徴—肉眼形態と深達度……………新潟大・病理	味岡 洋一・他
	10 mm 未満の大腸癌の病理組織学的特徴—組織発生の観点から……………筑波大・病理	大倉 康男・他
主 題 研 究	拡大内視鏡検査法による小さい大腸癌の診断……………京都第一日赤・2 内	多田 正大・他
座 談 会	小さな大腸癌……………仙台市医療センター	望月 福治・他
今 月 の 症 例	小さな大腸癌……………順大・消内	松川 正明・他
病 理 学 講 座	消化器疾患の切除標本—取り扱い方から組織診断まで(4)……………新潟大・1 病理	吉田 亮・他
初 心 者 講 座	大腸検査法 “X 線検査・撮り方、読み方”……………福島医大・2 内	栗 原 陽 一

胃と腸（第22巻 第3号）

編 集 早期胃癌研究会

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 椿 孝雄

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

☎ 受付台 (03) 817-5600

本誌編集室直通 (03) 817-5714

販売部直通 (03) 817-5659

1987年3月25日発行(毎月25日発行)

1部定価 1,700円(配送料 80円)

年ぎめ予約購読料 19,080円(送料弊社負担)

FAX (03) 815-7802

振替口座 東京 7-96693 番

印 刷 所 永和印刷(株) ☎ (03) 813-5001

広告取扱 医界弘報社 ☎ (03) 814-5771

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo. © 1987, Printed in Japan.

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権の侵害となることがありますので御注意下さい。

(担当)長谷川・窪田・大竹